

紙つて

フィレンツェから数^キ離れたガルツツォ村に、カルトジオ修道会の修道院がある。チェルトーザと呼ばれ、フランス語ではシャルトルーズ。スタンダールの『パルムの僧院』の原題はパルムのシャルトルーズ。映画『大いなる沈黙へ』で注目されたカルトジオ会は、カトリック教会の中でも戒律の厳しきで知られる。

フィレンツェからバスに揺られること半時間、トスカーナの丘の上にその建物が見えてくる。修道院の一部を公開していて、案内役の修道士について内部を見学できる。見学者が一定の数になると見学ツアーが始まるというので、イタリア国内外の観光客と挨拶を交わしながら所在な

ガルツツォの修道院

武田 好

げに待つこと数十分。

所蔵の絵画作品を見て、礼拝堂を進んでいくと、中庭をぐるりと囲む回廊に沿って僧坊が並んでいる。何もない質素な造りの部屋の通路側の壁には、食べ物を差し入れるための四角い穴が開いていて、皆は言葉少なにのぞき込む。

そこで思わぬ名前を耳にした。ル・コルビュジエである。この修道院を訪れて僧坊を見たことが、彼のその後の作品ヘインスピレーションを与えたという。沈黙の部屋と共同生活の空間。個室と中庭の対比。日本では国立西洋美術館を設計したことで知られるコルビュジエは、現代の集合住宅の間取りの着想を修道院の構造から得たのだ。過去と現在が二重写しに見えた瞬間だった。

(静岡文化芸術大教授)

2020.3.7

2020.3.7

中日新聞(夕刊) P.1